

川越町の子どもたちの学力向上に向けて

～全国学力・学習状況調査の結果報告～

令和4年 10月21日

川越町教育委員会

川越町立川越南小学校

本年5月、小学校6年生及び中学校3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果概要をお伝えします。川越町教育委員会では、結果からわかる、子どもたちの「強み」「弱み」等の傾向をとらえ、具体的な施策に反映していきます。つきましては、保護者の皆様には、家庭生活や生活習慣の見直しに向けてご協力をお願いいたします。

なお、この調査は学力の特定の一部を測るものであり、学力のすべてを測るものではないことをご理解ください。



1. 学力・学習状況調査結果

(1) 学力調査の結果

□全体の傾向・・・正答率が中位よりやや低い児童が多い。

国語：正答率中位よりやや低い児童が多くみられる。

算数：正答率の低い児童は少ないが、中位よりやや低い児童が多くみられる。

理科：正答率の低い児童が少なく、全体的に正答率が高い。

	強みと弱み（強み・・・「◎」 弱み・・・「◇」）
国語	◎話し言葉と書き言葉との違いが理解できている。 ◎漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことの大切さが理解できている。 ◎全体的に無回答率が低い。 ◇必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える力に課題がある。 ◇登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える力に課題がある。 ◇表現の効果を考える力に課題がある。

算数	◎示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる児童が多い。 ◎正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる児童が多い。 ◎図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解ができている。 ◇二つの数の最小公倍数を求める力に課題がある。 ◇加法と乗法の混合した値の求め方を解釈し、ほかの場合の値の求め方と答えを記述する力に課題がある。 ◇数量が変わっても割合は変わらないことを理解できていない児童が多い。
理科	◎実験器具の名称を理解している児童が多い。 ◎問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書くことができる児童が多い。 ◎実験結果の表を基にしたまとめを読んで、その理由を書くことができる児童が多い。 ◇実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつ力に課題がある。 ◇水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解できていない児童がいる。 ◇観察などで得た結果を、他者の気付きも踏まえて分析し、自分の考えをもつ力に課題がある。

(2) 児童質問紙による生活調査結果

①学習時間帯（平日）

Q：学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか（学習塾や家庭教師、インターネットで学ぶ学習も含む）

・学習時間が1時間以上児童の割合・・・全国：59.4％ 川越町：57.8％

***平日に1時間以上家庭学習の時間を確保している子どもは、60%弱となっている。**

②計画的な家庭学習

Q：家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。（学校の授業の予習や復習を含む）

・（どちらかといえば）している児童の割合・・・全国71.7％ 川越町68.2％

***自分で計画を立てて勉強している子どもは、70%弱となっている。**

③読書習慣

Q：学校の授業以外に、普段（月～金曜日）1日あたりどのくらい読書をしますか。

- ・1日の読書が30分以上の児童の割合・・・全国：36.4% 川越町：35.1%
- ・読書を全くしない・・・全国：26.3% 川越町：34.4%

***35%の子どもたちがほぼ毎日30分以上読書をしているが、同様に35%程度の子どもたちが全く読書をしていない。**

④基本的生活習慣

Q：毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。

- ・起きている児童の割合・・・全国：56.8% 川越町：57.1%

Q：毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

- ・寝ている児童の割合・・・全国：40.7% 川越町：46.8%

Q：毎日、朝食を食べていますか。

- ・食べている児童の割合・・・全国：84.9% 川越町：74.7%

***起床、就寝に関しては、規則正しい生活が送られている。しかし、朝食を毎日食べていない子どもがいる。**

⑤自尊感情

Q：自分には、よいところがあると思いますか。

- ・（どちらかといえば）あると答えた児童の割合
・・・全国：79.3% 川越町：80.6%

***自尊感情の高い子どもは約80%いるが、「自分には、よいところがある」と思っていない児童が約2割程度いる。**

⑥キャリアの形成

Q：将来の夢や目標を持っていますか。

- ・（どちらかといえば）持っている児童の割合・・・全国：79.8% 川越町：74.6%

***将来の夢や目標を持っている子どもの割合は、75%程度となっており、25%程度の子どもは夢や目標を持っていない。**

⑦スマートフォンやコンピュータの使い方

Q：携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。

- ・（だいたい）守っている児童の割合・・・全国：71.5% 川越町：67.6%

***約70%の子どもは家の人との約束を守れている。**

⑧主体的・対話的で深い学びについて

Q：今まで受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。

- ・（どちらかといえば）取り組んでいた児童の割合
・・・全国：77.3% 川越町：73.4%

Q：今までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。

- ・（どちらかといえば）工夫して発表していた児童の割合

・・・全国：65.4% 川越町：53.9%

Q：児童・生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

・（どちらかといえば）できていると回答した児童の割合

・・・全国：80.1% 川越町：71.4%

***主体的に学習しようとする子どもは73%程度となっており、自分の考えを深めたり、広げたりすることはできているが、自分の考えがうまく伝わるように工夫して発表することは苦手である。**

（３）学校質問紙の結果からみえる児童の姿

- ① 自分の考えを深め、表現する力を育成するために「話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか」「話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」という問いに対して、本校では肯定的な回答をしています。また、「授業において、児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか」という問いに対しても肯定的な回答をしています。指導者が学習指導要領に示された子ども達につけるべき力を意識したうえで、ねらいを持って意図的に授業の中で話し合い活動等に取り組むようにしています。

今後も子ども達に基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むために各教科等の中で、ねらいをもった話し合い活動等を進めていく必要があるととらえています。

- ② 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に向けて、「授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」という問いに対して、本校では、肯定的な回答をしています。また「習得・活用及び探求の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか」という問いに対しても肯定的な回答をしています。学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して授業改善を進めていく必要があると考えています。また、児童質問紙にある「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という問いに対しては74.7%の児童が肯定的な回答をしており、子どもたち自身が、授業の中で、「何を学ぶか」が明確になっており、授業のふりかえりをとおして、次の学習の意欲につなげているのだと考えられます。今後も川越町が大切にしている「めあてとふりかえりのある授業」を実践し、子ども達が「何を学ぶのか」という学習の目的意識をはっきり持ったうえで、授業に臨み、「どのように学ぶのか」を意識させた授業改善を進めていく必要があると考えています。

- ③ 「これまでに学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか」という問いに対して、本校は肯定的な回答をしています。一方、児童質問紙において「自分には、よいところがあると思いますか」という問いに80.6%の児童が肯定的な回答をしています。

学校教育活動において自尊感情の育成には、個々の児童が学習の場面において「できた」「わかった」という満足感や充実感を持つことや、学校生活での仲間とのかかわりの中で、認められることや受け入れられることが重要な要素になると考えています。今後も個々の児童と向き合いながら、良い点や頑張り、改善点を積極的に認めていく機会を意識的に持つことが大切だと考えています。

2. 学力・学習状況調査結果の「弱み」を改善するための対策



全体を通して

全教科において、教科特有の「見方・考え方」、つきたい力を明確にし、児童自身が「何ができるようになるか」を明確にしながら「何を学ぶか」という学習内容だけでなく、「どのように学ぶか」という学習課程を重視した授業改善を進める。

1. 「めあてとふりかえり」（目標の提示、振り返り活動）のある授業の徹底を図り、子どもたちが一時間の授業の中で「できた・わかった」と実感が持てる学習へつなげる。
2. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。
3. ICT 機器の効果的な活用を探り、授業改善を行う。
4. 自分の考えや必要な情報を整理して書く力をつけるための指導を行う。
5. 一人一人の学習状況を十分とらえ、少人数による効果的な指導を行う。

国語

1. 書くことの指導の充実

- ・書く活動において、児童の興味関心に応じた題材を設定し、子どもたち自らが書こうとする気持ちを高める手立てを講じ、児童が主体的に取り組めるように工夫する。
- ・発達段階に応じて「字数制限やテーマなどの条件を与えて書く活動」を、授業の中に継続的に取り入れていく。（国語に限らず他教科においても「条件を与えて書く」活動を行っていく）
- ・文章を書く際には、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることを意識させ書く活動を行っていく。

2. 読む力を育成する指導の充実

- ・小学校低学年段階での MIM-PM の取り組みを継続して行い、「読み」に対して苦手感を感じている子どもに、早期に指導を行えるようにしていく。
- ・いろいろな文章や作品に出会わせるために、読み聞かせの機会を充実したり、選書コーナーを設置したりするなど、読書活動や学校図書館での活動を工夫する。

3. 自分の考えをまとめる活動の充実

- ・授業における話し合いや毎時間のめあてに対するふりかえりの中で、自分の考えをまとめる活動を取り入れる。発達段階や内容に応じて、字数制限やキーワードを提示するなどの条件を与えて書かせるようにする。
- ・自分の考えをまとめたものを友だちと共有する活動を取り入れ、自分の考えと比較し、新たな考えを知りながら、考えを深めていく活動を取り入れる。その手立てとして ICT 機器の効果的な活用を進めていく。
- ・自らの問題解決に必要な資料や情報を選択・活用し、友だちと互いに意見を出し合って自分なりの考えをまとめる活動を取り入れる。さらに、まとめたものを発表する活動につなげていく。

算数

1. 基礎的な力をつける時間の確保

- ・基礎となる内容の定着のために、ていねいに指導できる時間の確保と家庭学習の充実を図り、定着に向けた取り組みを進める。

2. わかる授業を目指した授業展開の工夫

- ・子どもたちの生活に沿った身近な課題を見出し、児童が主体的に取り組める授業を展開していく。また、算数の時間に学習したことを日常生活の中で活用できるように工夫する。
- ・言葉や数・式と、図・表・グラフなどを関連付けた授業を取り入れる。
- ・「ふりかえり」の時間を大切にするとともに、子どもたちの理解度を測る評価問題などを適切に取り入れる。

- ・個々の子どもたちの強み・弱みを把握し、少人数による学習活動を進める。
3. 自分の考え方や求め方を説明する
- ・算数用語、算数的な表現を用いて「◎◎であるから、△△である。」の形式で記述させたり発表させたりする。
 - ・ICT 機器を効果的に活用し、個々の児童の考え方や求め方を交流したり、自分の考え方をまとめたりする。



理科

1. 生活科から始まる「遊び」「体験」活動の充実
- ・日常生活や身近なことから、価値や疑問を見出し、自分で調べたり考えたりする活動を繰り返し行い、探求意欲を高める。
2. 実体験を伴う観察・実験の充実
- ・生物や実験器具等を見たり、触れたりして本物を知る。また、観察・実験の充実を図り、教科書からだけでなく、体験を通して知識・技能を高めていく。さらに、観察・実験をするだけでなく、予想や仮説を設定し、観察・実験後に検証する。また、その結果からさらに考え合う活動を設定する。仲間の考えを聞き、自分の考えをより妥当な考えに改善するための時間を確保する。
3. 複数の情報を関連付けながら、分析・考察させる活動の充実
- ・複数の情報を比較させ、共通点や相違点を見つける場面を設定する。

3. 町教育委員会による手立て

（１）少人数教育の充実

少人数での指導体制を継続し、国語科および算数・数学科を中心とした基礎的・基本的な力の向上を目指します。

（２）きめ細やかな指導体制の充実

町非常勤講師や学習支援員及びALTの配置を生かした指導のあり方をさらに充実し、一人一人の子どもたちが学びやすい環境づくりを進めます。

（３）学力向上推進委員会の開催

川越町学力向上推進委員会において、各校の学力向上に向けた取組について協議・情報交流を行い、子どもたちの学ぶ力を伸ばすための授業改善を進めます。また、川越町全体で進める学力向上策について検討します。

（４）校内研修等への訪問指導・支援

北勢教育支援事務所および町教育委員会の指導主事、学力向上アドバイザーが各校へ訪問し、学力向上に向けた校内研修への指導・支援を進めます。また、学力の定着を図るための授業のあり方について、教職員に向けた継続的な直接指導を進めます。

（５）ICT 機器を効果的に活用した授業の推進

授業において視覚的効果を高めるために、大型提示装置を活用して教材を提示したり、子どもたち同士が意見や考え方を交流しあう場面においてタブレット端末を活用したりして、主体的・対話的な授業の実現を目指します。また、ICT 機器の研修会等の校内研修への指導・支援を進めます。

（６）家庭学習習慣及び読書活動の推進

各家庭でのTV視聴やゲームをする時間を振り返り、各校が配付している家庭学習の手引き

やシラバス（授業計画）をもとに、家庭学習の定着に向けた取組を進めていきます。また、「読書旅行」や「家庭読書の日」の取り組みを推進し、小学校低学年から本に触れ合う機会を増やし、語彙量（ごいりょう）を増やしていきます。

『豊かな心』を土台とした社会で生きていく力の育成

2022年4月に改定しました川越町教育基本方針で示した通り、川越町は【『豊かな心』を土台とした社会で生きていく力の育成】を基本方針としています。「知」知識・技能、「情」情操、「意」意思の3つがバランスよく調和することが、子どもたちが「社会で生きていく力」となります。『豊かな心』を培うために、「非認知能力を高めること」「個性を大切にすること」「相手の個性を尊重すること」を大切に、すべての教育活動を行っていきます。

4. 川越南小学校の取り組み

（１）全国学力調査の内容・結果の分析及び検討を授業づくりへ活かす

教職員全員で4月と8月に研修会を開き、8月には全国学力調査の問題を実際に解きながら結果を分析しています。強みと弱みを考え、それを学習指導要領と結び付けながら、日々の授業でどう授業を改善したらよいのかを考えて取り組んでいます。

（２）授業力向上に向けた校内研修の充実

本校のこれまでの全国学力調査の結果から、読解力と書く力に課題があると考え、国語科を中心とした研修を進めています。年度初めには、外部から講師を招き実際に子どもたちに授業をしてもらうのを、見て学ぶことから始めました。8月には全教職員で具体的な授業づくりの方法を学ぶ研修会を行いました。また1年を通して全員が授業を見せ合って講師の指導助言を受けながら学び合い、授業力向上につなげています。

（３）国語科における「書く」活動の充実と定着

今年度の全国学力調査には物語文が出題されました。その中で、叙述に基づいて読み取る力と、具体的な事例をまとめるとどのような記述になるのかを書いたり考えたりする力が不十分であることがわかりました。これらの課題が克服できるように、学年ごとで、さらには全学年を通して系統立てて指導するようにしていきます。

また、学習は必ず言語を介するため、これらは全ての教科にある通じる課題であると考えられます。このことを全職員が意識し、日々の授業の中で叙述をもとに読み取ったことを整理して「書くこと」に多く取り組んでいます。

（４）算数科における少人数・習熟度別授業の推進

子どもたちのニーズに合わせたきめ細かな指導が行えるように体制を整備しています。

低学年では、各学級に毎時間支援員が入り学習を支援しています。3年生では、各学級担任のほかにもう一人の教員が入り、2人で授業（ティーム・ティーチング）を行っています。4・5・6年生では習熟度別に「じっくり」「のびのび」「どんどん」の3コースに分かれて学習を進めています。

特に4・5・6年生では計算の単元と図形の単元でコースを変えるなど、個人に合わせて柔軟な編成を行っています。どの学年においても、授業中気付いたことを各コースの担当から担任にフィードバックし、個々の児童の実態に合わせ、一人ひとりのつまずきに寄り添うことのできる体制をとっています。

5. 家庭・地域へのお願い

(1) 家庭学習の習慣を定着させる・・・見守る、声をかける

子どものノートや学習したプリント等にできるだけ目を通し、「見守り・声かけ」をしていただくようお願いします。家庭学習を継続させるためには、声をかける、頑張りの過程をほめる、励ますことです。子どものやる気を引き出すことも保護者の役割です。

【家庭学習を習慣化するポイント】

《児童》

- ・毎日、決まった時間に決まった場所で勉強する。
- ・テレビ・スマートフォン等の電源を切って、集中して勉強する。
- ・机の上をかたづけて、良い姿勢で勉強する。

《保護者》

- ・テレビやゲームを楽しむ時間や、スマートフォンを使用する時間、方法などについて、各家庭でルールをつくる。

例) 毎週水曜日は「ノーテレビ・ノーゲームデー」にする。

夜の10時以降は、携帯電話やスマートフォンを使わない。 など

- ・カレンダーに「○」を付けるなど、学習の記録を記すようにし、子どもたちの頑張りを「見える化」し、ほめる。

(2) テレビやゲームを楽しむ時間のルール作りを子どもと一緒に考える・・・思いやりの心につながる

家庭内のルールを子どもたちと一緒に会話をしながら作っていただきたいと思います。家族同士の触れ合いはコミュニケーション能力の向上にもつながります。また、ルールづくりは子どもの自制心・誠実さ・忍耐強さにつながることはもちろんですが、思いやりや共感力を育みます。

(3) ほめる・認める・・・自己肯定感・自己有用感を高める

今回の児童生徒質問紙の結果からも、「15%から20%程度の児童が、じぶんには良い所があると感じられない」という状況がみられました。子ども達は個々によって得意なことや苦手なことは様々です。「家族で決めた約束が守れた」「苦手なことにも挑戦した」など、子どもが何かを継続して行ったときや、前向きに挑戦した、以前よりも進歩や成長が見えたときには、その機会を見逃さず、きちんとほめましょう。成功や失敗、順位や点数等だけに注目するのではなく、過程を大切にして、子どもの意思で行動したことを評価することが大切です。

【子どものほめ方のポイント】

- 他の子（友だちやきょうだい）と比べてほめない
- よかったことを具体的にほめる
- 結果（順位や点数等）に注目せず、努力したことをほめる
- その場ですぐほめる

「ほめて伸ばす」ことは、「叱ってはいけない」ことではありません。子どもが「なぜ、叱られたのか」を納得できるような叱り方をして、目指すべき良き行動がとれるように導いていきましょう。

(4) 親子で読み聞かせや読書をする機会を大切にする・・・家庭読書習慣

読書活動は、使う言葉の幅が広がり表現力が向上し、より豊かな会話につながります。いろいろな考え方に接したり、想像力を膨らませたりすることにより、共感力や発想力が生まれます。「語彙（ごい）の量と質」の違いが学力差に大きく影響しているとの指摘があります。まずは、おうちの方からの読み聞かせや、テレビの時間を読書の時間に変えることから始めましょう。

